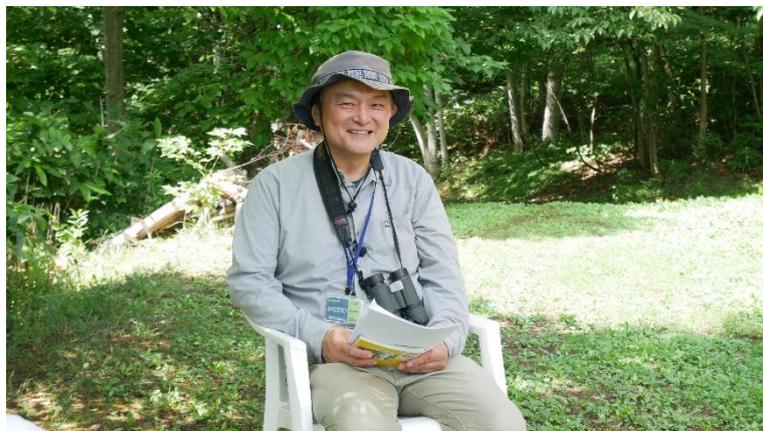


道民カレッジ主催講座

令和7年度第2回インターネット講座

小さな雪だるま  
～シマエナガの生態を学ぶ～

資 料



公益財団法人札幌市公園緑化協会

皆川 昌人 氏

道民カレッジ

## 【鳥への関心のきっかけ】

小学生の時に鳥の図鑑を見ていて、「鳥って面白いな」と思ったんです。東京に住んでいたんですけど、上野公園に行って、その鳥を見るようになったのがきっかけです。

それで中学に入学する時に、この旭山記念公園の近くに戻ってきて、旭山記念公園を中心に鳥を見るようになったというのが、そもそものきっかけです。

## 【野鳥の魅力】

綺麗だというのは一つありますよね。あと、身近な存在だということがあります。我々が生活していても、山に行かなくても、市街地でも割と身近な鳥というのは、雀だけではなく結構いるものなので、身近なものが見られるというのと、あとは飛べるので、時々思いがけない鳥が見られたりというのも面白いところかなと思います。探すこと自体もやっぱり面白いですよ。

## 【シマエナガの特徴】

シマエナガはスズメ目エナガ科エナガという鳥の一種で、エナガは日本全国にいるんですけど、本州より南にいるエナガは顔に黒い帯があって、顔が黒く見えます。それに対して北海道にだけいる亜種シマエナガは、顔に黒い帯がなくて白く見えます。

エナガはユーラシア大陸の主に北部に広く分布していて、ヨーロッパやロシアなどにもいます。北海道のシマエナガと同じ白いタイプの方が多いですね。顔が黒い方が世界的には少ないです。

人間が生まれる遙か以前の話で、北海道と青森の間の津軽海峡というのは深くて、昔、日本に調査に来ていた外国人のブラキストンという人が、津軽海峡より北と南で生きている生物がかなり違うということを見ました。それで「ブラキストン線」と名付けられているんですけど、もともと北海道の方は間宮海峡を通じて北側のロシアとつながっていたので、北側の動物が地続きに入ってきて住み着いたと考えられています。一方、本州の方は南側の朝鮮半島と近く、そちらとつながっていて、南側から来た動物が入ってきて住み着いていた、ということです。

津軽海峡は、かなり昔の水河期には陸続きになるくらい凍っていたので、その時代に南から来たヘビとかアマガエルとか、日本全国にいる生き物は北海道に入って住み着いています。しかし津軽海峡は深いので、その後の少し暖かい時期には海のままだったため渡れず、そこで生き物の交流が途絶えていたということです。

「でも鳥だから飛べるんじゃないか」と言われるんですけど、シマエナガは留鳥で、自分の住んでいるところを変えない鳥なので、何か間違わない限りは飛んで行ったりはしません。自分にとって環境が悪くないところに、わざわざ移動もしないということです。

たまにシマエナガが青森などで観察される例がありますが、それは間違って飛んで行ってしまったもので、基本的には渡りをしない鳥なので、陸続きになった時代も関係なく、北海道だけに生き残っているということです。

シマエナガは顔が白いので雪だるまみたいに見えるということで、近年人気が出てきました。人気が出たきっかけというのが、この「シマエナガちゃん」という写真集が2016年の秋に出たことで、これがテレビで紹介され、鳥に興味を持った方が増えました。

ここ旭山記念公園でも毎月野鳥観察会をやっているんですけど、参加する方がシマエナガブームの前に比べると4倍から5倍くらいに増えています。

## 【シマエナガの12ヵ月】

1月は、みんなで集まって寒さに耐えながら行動しています。若い個体は群れの中で新しいパートナーがいなか探したりしています。

また、ここでも時々見られるんですけど、別の群れと出会った時に小競り合いのような行動をすることがあります。体の接触はないんですが、激しく鳴き合っ争うような様子が見られることがあります。

2月の後半になると、だんだん仲間が離れていって、家族同士、あるいはペアで行動するようになります。一部の若い個体は両親と一緒に行動し、「ヘルパー」として子育てを助けることがあります。

イタヤカエデでは樹液がたくさん出るので、その樹液を飲みに来ます。

3月は巣作りに忙しい時期で、素材を求めてあちこち動き回っています。群れとしては見られないんですが、人間側から見ると、少ない数の個体を頻繁に見かける時期でもあります。

素材は苔を集めてきて、それをクモの巣で固めて巣を作ります。固める時には体を打ち付けてペタペタと形を整えることもあります。

巣作りはつがいで協力して行います。野鳥は基本的にメスが巣を作ることが多いんですが、シマエナガは珍しくオスもメスも共同で作ります。

4月には巣が完成し、卵を産み、メスが抱卵し、オスがサポートする時期になります。抱卵中は巣の中が狭いので、尾羽の先が曲がった状態になります。時々、餌を取りに出てきた個体の尾羽が曲がっているのを見ると、「あ、この個体は抱卵していたんだな」と分かります。

下旬から5月頭にかけて孵化します。

5月は子育ての最盛期で、餌を頻繁に運んできます。ただし、シマエナガは人が見えるところから100メートル以上離れた場所でないとう巣を作らないほど神経質なので、巣に餌を運ぶ様子は時々しか見えません。巣そのものを見ることはもちろんできません。

下旬になると巣立ち、数日間は「エナガ団子」と呼ばれる、幼鳥が寄り添って固まる姿が見られます。

6月は家族で回りながら、社会勉強のようなことをしている時期です。幼鳥は本州のエナガと同じように顔に黒い帯が入っています。6月はまだ黒帯が残っていますが、だんだん後退して薄くなり、完全に大人になると黒帯がなくなります。

6月の段階では個体差が大きく、黒い帯がしっかり残っているものもいれば、目より後ろまで後退しているものもいて、かなり違いがあります。

7月になると、ほとんど黒い部分はなくなります。シマエナガは「ふっくらしてモフモフ」というイメージが強いんですが、この時期は子育てでやつれて見えることが多いです。

8月は暑い時期で、少し標高が高い場所に移動することがあります。実際、5年前には2ヶ月間、旭山記念公園で一度もシマエナガを見なかったことがありました。おそらく藻岩山の方など、少し高い場所に移動していたのではないかと考えられます。

また、社会勉強を兼ねて普段あまり行かない場所に行くこともあります。例えば北区の屯田遊水地のように、周りに林がない平地でも、8月に一度だけシマエナガが出たことがありました。広く動き回る過程で立ち寄っただろうと考えられます。

9月になると元いた場所に戻ってくる感じで、旭山記念公園でも7~8月より見られる機会が増えます。まだ冬羽にはなっておらず、少しやつれた感じですが、10月になるとだんだんモフモフの白い綺麗な羽に生え変わっていきます。

11月になると、また家族が集まり始め、大きな群れで行動するようになります。

12月になると群れで行動し、この時期には木の実を食べることが稀にあります。ヌルデという木の実には塩分が含まれていて、その塩分を取るために食べることがあります。そんな感じで一年間を過ごしています。

## 【シマエナガの生態と暮らし】

シマエナガの特徴として、子育ての時に、前の年に生まれた子供でペアになれなかった個体が、親の子育てを手伝う「ヘルパー」をするという習性があります。ヘルパーと一緒に餌を運んで、幼鳥に餌を与えたりします。これは野鳥の中ではあまり多くない例です。

シマエナガは、一度つがいになると相手が死ぬまでは別れないと言われていました。仲が良いというか、団結力が強いというか、絆が強い鳥なのかなと思います。

基本的に家族で行動していて、この時期に見られる時はだいたい3羽から5羽くらいで見られます。それが10月から11月くらいになると、何家族かが集まって10羽から20羽くらいの群れで行動するようになります。冬の間は一度見られるとたくさん数が見られるので、シマエナガを見るには一番良い時期と言われていました。12月から1月ですね。

食べ物はほとんど虫です。昆虫の卵や幼虫、クモなどを食べます。木の葉や樹皮の裏に潜んでいる虫を探して食べています。植物性のものはほとんど食べないので、庭に餌台を置いてひまわりの種やパンを置いても、シマエナガは来ません。

ただし、全く食べないわけではなく、ハリギリという木の実や、ヌルデという木の実など、一部の木の実を食べることがあります。また、イタヤカエデという木があって、そのイタヤカエデが2月から3月にかけて樹液をたくさん吸い上げ、その樹液が折れた部分や傷ついた部分から表面に出てきて、つららのようになったものを飲みに来ることもあります。

敵は猛禽類、例えばタカやハヤブサなどです。また、一部の動物に捕まることもあります。カラスも天敵で、雛を襲うだけでなく、シマエナガの巣を見つけると壊してしまうことがあります。

巣が早い段階で壊された場合は、シマエナガは巣を作り直せるんですが、卵を産んだ後など繁殖が進んでから壊されると、その年は繁殖できなくなってしまいます。

ちなみに、シマエナガブームになって巣を見つけようとする人が増えていますが、カラスは頭が良く、人間が巣を見ていると「その先に巣がある」と理解してしまい、巣を壊してしまうことがあるそうです。

シマエナガが巣を作るのは、基本的に地上8メートルより高い木の枝です。カラスも、特にハシブトガラスはもともと森で生活している鳥なので、木の上の方で生活しており、巣を見つけやすいのだと思います。シマエナガは、どちらかという素早くない鳥で、鳥の目から見ると動きが遅くないため狙われやすい面があります。

森林があって開けた場所があるところが一番好きで、旭山記念公園はまさにそういう環境です。

市内で言うと、真駒内公園や西岡公園などにもよく出ます。例えば青池の反対側の背中側などでもよく飛んでいます。農耕地帯でも、林が近いと結構います。

逆に、人があまり来ないような深い山の中にはあまりいません。標高はだいたい500メートルくらいまで、あまり高山にはいない鳥です。海岸近くでも、防風林や小さな林があればいることがあります。北海道内では広くどこにでもいる鳥です。

## 【野鳥観察の楽しみ方】

双眼鏡の使い方ですが、人間は物を見る時に斜めの視線で見ることがあります。例えば、あそこに鳥がいるんですけど、顔はこっちを向いたまま目があっちを見ていると、顔の正面に双眼鏡を当てても目線とずれてしまいます。

ちゃんと見たいものを顔の正面で捉えて、そこに双眼鏡を当てるのがコツです。

服装についてですが、足や手を出さないようにした方がいいと思います。特に注意するのはダニで、笹に近づくとダニがついてしまうので、公園などで見るときには笹があるところには入らないことが大事です。また、観察している人の前に入らない、横で大きな声で話さないなどのマナーもあります。

巣についてですが、シマエナガは巣に対して非常に神経質です。巣に人が近づくと、卵を産んでいる状態や抱卵している状態でも放棄してしまうことがあります。

巣は当然見つけにくい場所に作っていますが、もし仮に見つけてしまった場合は、すぐにその場を離れ、次からは近寄らないようにしてください。動きが早いと驚かせてしまうので、ゆっくり、しかし速やかに離れることが大切です。

巣の場所を他の人に伝えたり、SNSに載せたりしないことも重要です。これは人間側が特に気をつけなければならないことです。

### 【旭山記念公園の野鳥観察】

旭山記念公園では毎月2回、野鳥観察会をやっています。初心者の方大歓迎で、「野鳥観察をしてみたいな」と思ったら、まず最初に来ていただける場所にしたいと思っています。

この観察会では野鳥以外の話もよくしていて、植物や虫の話もします。特に8月・9月は鳥があまり出ないので、そういう話が多くなります。

野鳥を軸にして自然を見たいという方、逆に植物が好きで野鳥も見たいという方にも楽しんでいただければと思っています。

旭山記念公園は街から近いので、いろんな人が行き来して情報交換したり、それをこちらでまとめて発信したりする場所になればと思っています。

### 【おまけ】

シマエナガの次に人気があるのは、個人的な感覚ですがルリビタキですね。その次に人気があるのがキクイタダキです。日本で一番小さい鳥で、目が大きくてとても可愛いです。

キクイタダキは夏の間はここにはいなくて、少し標高が高いところにいます。10月になると降りてきて、主に松に集まります。キクイタダキはとてもおすすめの鳥です。